

光栄の森

2019年7月 毎月1日発行 第131号
発行者 光栄プロテック 中川

7月に向けて

代表取締役 三田雅憲

6月もあっという間に過ぎてゆき、元旦から数えると半年が経過したことになります。「光陰矢の如し」のことわざにもありますが、時の流れは早く意識して事に当たらないと何事も為せなくなります。目標を持ってお互いに頑張りましょう。

今期の4月、5月、6月は例年仕事の落ち込みがあり後月で取り返しが大変なのですが、今回は比較的堅調に仕事が推移しており、7月以降も社員の皆様には頑張ってもらいたく思います。

ただ、忙しい時期が続くといつも頭に浮かぶのが30年前のバブル崩壊の時のことです。1990年代前半に、バブルがはじけました。当時建設業はまだまだバブル延長で仕事がありました。タイムラグが少しあったのです。仕事は今と一緒にいくだけでもあり、やったって然的な雰囲気強く職人天国状態が続いていたのですが、2年～3年後に本当に仕事が少しずつ減っていき、そして長く厳しい建設不景へと続いていきました。

昨今入社して頂いた社員さんの中には、これだけ仕事が入っているのになんで断らないのだと思われる方もおられるかもしれません。しかし仕事のない、ひもじい経験を身を持って実感した人間としては仕事を断らず出来るだけ効率よく仕事をこなし、そして仕入や経費はとことん出費を抑え備品、道具を大切に長く使うという考え方や知恵はこのころ先代に叩き込まれたのです。こんな努力をして今の光栄プロテックがあることを新しく入社された社員の方には知ってもらいたいのです。仕事が入るのは決して当たり前ではありません。光栄の技術を知って使ってやろうと臆んぱしてくれる顧客があるから、仕事を出してくださるのです。ですので、仕事に対して真摯に取り組んで欲しいのです。真摯に仕事をしない自分も技術も成長しませんし、会社も伸びていきません。

7月には、当社を含む業界初の電車車両に「本硫化イブシ仕上」が採用されます。今期は、できる限り新しい顧客、新しい業界に営業部の諸君と共にチャレンジしていきたいと考えています。工場もぜひ協力願います。

来年3月開催の当社創業50周年記念祝賀までに大阪本社には社員食堂とライブラリー（図書室）の設置をして社員の福利厚生充実を考えております。又、千葉白井工場の人員補強もしていきます。

又、広報活動（PR活動）や新技術、人材育成プログラム等を策定する総合企画室の設置と工事班の充実にも努力しています。又、光栄のブランド力を上げてこれからの10年を見据えた新しい取り組みを加速していく考えです。

いずれにせよ実行に伴い改善改革をこれからも微力ではありますが、進めていきますので社員皆様にお力をぜひ、貸していただきたく思います。